

地理的な探究のための地理的技能の指導

—— 英国の地理教科書 *KEY GEOGRAPHY SKILLS* が示唆するもの ——

Instruction of the Skills for Geographical Inquiry :

What Geography Textbook *KEY GEOGRAPHY SKILLS* Suggests.

岩野清美

Kiyomi IWANO

(和歌山大学教育学部)

2017年8月2日受理

要約

平成29年版『中学校学習指導要領解説 社会編』では、地理的分野における「地域調査」について、地理的な事象を見だし、事象間の関連の発見過程を体験することで、地理的な追究の面白さを実感できる学習が求められている。ところが、現在の中学校地理的分野の教科書では、事象を成り立たせている要因を調べ、関連を調査する学習プロセスの指導が十分に行われていない。本研究ではこの課題に応えるために、英国の地理教科書 *KEY GEOGRAPHY SKILLS* から「書くこと」におけるいくつかのレッスンを紹介し、地理的事象に関する仮説の立て方について丁寧な指導を行うことが、仮説検証のために何を調べればよいのか子どもが見通しをもって学ぶことのできる学習につながりうることを示した。

1. 問題の所在

平成29年版『中学校学習指導要領解説 社会編』¹⁾では、地理的分野「C 日本のさまざまな地域 (1) 地域調査の手法」の単元で、地理的探究について以下のように記されている。

(1) 地域調査の手法

場所などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方の基礎を理解すること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (イ) 地域調査において、対象となる場所の特徴などに着目して、適切な主題や調査、まとめとなるように、調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し、表現すること。

この中項目は、場所などに関わる視点に着目して、地域調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し、表現する力を育成することを主なねらいとしている。そうした学習の全体を通して、地域調査を行う際の視点や方法を理解し、そのために必要な地理的技能を身に付けられるようにすることが求められ

ている。(中略)

観察や野外調査をして、地理的な事象を見だし、事象間の関連の発見過程を体験し、地理的な追究の面白さを実感できる作業的で具体的な体験を伴う学習を通して、地域調査の手法について理解し、地域調査に関わる地理的技能を身に付けることが大切である。

地理的な事象を見だし、事象間の関連の発見過程を体験し、地理的な追究の面白さを実感できる作業的で具体的な体験を伴う学習を通して、地域調査の手法について理解し、地域調査に関わる地理的技能を身に付けることが、今日、求められていると言えよう。しかし、学習者である子どもたちの実態は、必ずしもこのような学びに向かっているとは言えない。

藤沢市教育文化センターが2015年に中学3年生に実施した「学習意識調査」によると、「期待する授業」として「自分たちで課題を見つけ、考えたり、調べたりする授業」は最も人気がなく、「まったく期待しない」が8.6%、「あまり期待しない」が33.1%、逆に「非常に期待する」と答えた生徒は15.5%となっている。ここからは、子どもたちが調査的な活動を必ずしも好んでいないこと、つまり、子どもたちの活動のある授業が、必ずしも主体的な学びになりえていないことがわかる。また、本調査で子どもたちが「期待する授業」として挙げたもの(「非常に期待する」+「期待する」の割合が大きいもの)は順に、「楽しくリラックスした雰

囲気の授業]、「将来役立つ知識や技術を身に付けられる授業]、「自分の興味や関心のあることを学べる授業」である²⁾。「自分たちで課題を見つけ、考えたり、調べたりする授業」は人気がない一方、「将来役立つ知識や技術が身に付」き、自分にとって「興味や関心がある」と感じられるならば、それは子どもにとっても「期待する授業」となりうるということがわかる。

本来、社会科は指導要領の「教科の目標」に掲げられている通り、「課題を追究したり解決したりする活動を通して、…国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎」を育成する、子どもにとって「将来役立つ知識や技術を身に付ける」教科のはずである。しかし、現状は「子どもに知的に挑戦しない面白くないものとなっている」、「社会的事象・出来事について、『なぜそれが起こったのか』、『それはどうなっていくのか』と問い、問題を時間をかけて追求し、質の高い知識を習得していく道を閉ざしている」³⁾と森分孝治が1978年に指摘した状況から抜け出せておらず、子どもたちが課題を追究したり解決したりする学びの良さを味わえずにいるのかもしれない。

それでは、現行指導要領に基づいた教科書では、地域調査の手法についてどのような記述がなされ、どのような課題があるのか。また、その課題を克服するためにはどうすれば良いのだろうか。本研究は2016年に発行された2つの中学校社会科地理的分野の教科書の分析と、英国の地理教科書 *KEY GEOGRAPHY SKILLS* の紹介を通して、これらの課題に 대응しようとするものである。

2. 現行中学校社会科地理的分野「地域調査」における「地理的な探究」

(1) 現行教科書における「地理的技能」

ここでは、現行指導要領に基づく中学校社会科地理的分野の教科書における、地理的技能に関する記述を分析する。

地理的分野は、社会科のなかでも早くから「見方・考え方」を大切にしてきた分野である。平成20年版『中学校学習指導要領解説 社会編』のなかでまとめられた「地理的な見方や考え方」についての整理を表1に、また、新指導要領で示された地域調査の学習展開例を表2に示し、これらを分析の前提として用いたい。

表1 学習指導要領における「地理的な見方・考え方」⁴⁾

<p>【「地理的な見方」の基本】</p> <p>どこに、どのようなものが、どのように広がっているのか、諸事象を位置や空間的な広がりとかかわりでとらえ、地理的事象として見出すこと。また、そうした地理的事象にはどのような空間的な規則性や傾向性がみられるのか、地理的事象を距離や空間的な配置に留意してとらえること。</p>
--

【「地理的な考え方」の基本】

そうした地理的事象がなぜそこでそのようにみられるのか、また、なぜそのように分布したり移り変わったりするのか、地理的事象やその空間的な配置、秩序などを成り立たせている背景や要因を、地域という枠組みの中で、地域の環境条件や他地域との結び付きなどと人間の営みとのかかわりに着目して追究し、とらえること。

表2 学習指導要領による地域調査の学習展開例

I	取り上げる事象を決める。
II	事象を捉える調査項目を決め、観察や調査を行う。
III	捉えた地理的な事象について地図等に表す。
IV	傾向性や規則性を見だし、地形図や関係する主題図と見比べる。
V	事象を成り立たせている要因を調べ、関連を調査する。
VI	地図等にわかりやすくまとめ、調査結果を発表する。

現在、中学校社会科地理的分野の教科書を発行しているのは4社である。そのうち、2社の教科書では、それぞれ「技能をみがく」、「地理スキル・アップ」・「調査の達人」として、地理的な技能について計画的な指導ができるような構成になっている。それぞれの教科書で取りあげられている地理的な技能とはどのようなものであろうか。表3・表4に示す。

表3 A社の教科書で紹介されている地理的技能

【技能をみがく】

1	地図帳の統計資料の使い方
2	地図帳のさくいんの引き方
3	地球儀での距離と方位の調べ方
4	世界の略地図のかき方
5	写真の読み取り方①(写真に写っている複数の要素の読み取り)
6	雨温図の読み取り方
7	写真の読み取り方②(写真の比較)
8	グラフの読み取り方①(円グラフと帯グラフ)
9	主題図の読み取り方
10	グラフの読み取り方②(折れ線グラフ)
11	文献資料やインターネットの活用
12	統計資料のグラフ化
13	主題図のつくり方
14	レポートのつくり方
15	展示発表の仕方
16	時差の求め方
17	日本の略地図のかき方
18	地形図の使い方①～縮尺と地図記号～
19	地形図の使い方②～等高線と断面図～
20	地形図の使い方③～土地利用と空中写真～
21	人口ピラミッドの読み取り方
22	ルートマップのつくり方
23	聞き取り調査の方法
24	調査ノートを取り方
25	新旧の地形図の比較

(A社地理的分野教科書目次より。()内は内容が明確になるように筆者が加筆)

表4 B社の教科書で紹介されている地理的技能

【地理スキル・アップ】

1	地球儀を使った距離と方位の調べ方
2	地図帳を使った国や都市の探し方
3	世界の略地図のえがき方
4	統計資料の使い方
5	写真の読み取り方
6	雨温図の読み取り方
7	主題図の読み取り方①(定性データ)
8	グラフの読み取り方①(帯グラフ)
9	主題図の読み取り方②(階級区分図)
10	グラフの読み取り方②(折れ線グラフ)
11	主題図の読み取り方③(複数の主題図の比較)
12	時差の調べ方
13	日本の略地図のえがき方
14	地形図の読み取り方①(縮尺、方位、等高線、地図記号)
15	人口ピラミッドの読み取り方
16	地形図の読み取り方②(土地利用、地域の変化)

【調査の達人】

1	視点を持って地域を調べよう
2	ウェビングマップを作ろう
3	インターネットを活用しよう
4	「なぜ」という疑問に対する理由を考えよう
5	統計資料を活用してグラフを作ろう
6	いくつかの調べ方を組み合わせよう
7	主題図を作ろう
8	調査結果をレポートにまとめよう
9	発表の準備をしよう
10	効果的な発表をしよう
11	身近な地域の情報を集めよう
12	グループ調査をしよう
13	視点を持って調査テーマを決めよう
14	野外観察をしよう
15	聞き取り調査をしよう
16	資料を活用して調査しよう
17	視点を持って将来像を考えよう
18	調査結果を地図でまとめよう
29	分かりやすい発表をしよう
30	GISを活用しよう

(B社地理的分野教科書目次より。()内は内容が明確になるように筆者が加筆)

表3・表4と表1・表2からわかることは、表1に示された「社会的な見方」、表2に示された学習展開例のうち、IからIV、VIの指導が比較的充実し、地域調査の手法についての説明が丁寧になされているのに比し、「社会的な考え方」、学習展開では「V 事象を成り立たせている要因を調べ、関連を調査する」の部分の指導が現行の教科書では十分でないことである。例えば、表1の「地理的な見方」の指導について、「どこに、どのようなものが、どのように広がっているのか」、「どのような空間的な規則性や傾向性が見られるのか」という問いに対して、地形図、主題図といった地図のみならず、統計資料、景観写真、雨温図、さま

ざまなグラフ、人口ピラミッドなどを活用して答えることができるような指導が可能になるよう、教科書が構成されていることが、表3・表4からわかる。ところが、「なぜそこでそのようにみられるのか」、「なぜそのように分布して移り変わったりするのか」という「地理的な考え方」に基づく問いに対しては、生徒が答える十分な指導がなされていない。この点について、節を改めて考察したい。

(2)現行中学校地理的分野教科書における「仮説の検証」

「地理的な考え方」である「地理的事象やその空間的配置、秩序などを成り立たせている背景や要因」は目に見えないものであり、それらについての説明はどこまで行っても「仮説」に過ぎず、丁寧な検証が必要である。この検証の方法について、現行教科書ではどのように記述されているか、表5は、現行指導要領における「(2)日本の様々な地域」の「エ 身近な地域の調査」において、どのような仮説検証がなされているのか、A社を例に示したものである。

表5 A社の教科書における「仮説の検証」

調査テーマと問い	練馬区の町なみの変化 なぜ練馬区では住宅地が増えているのだろうか
予想	1. 練馬区には多くの鉄道路線と駅があって通勤や通学に便利なので、引っ越してくる人が多いのではないかと。 2. 昔、広がっていた畑が住宅地になったのではないかと。
調査で確かめたいこと	1. 昔は学校のまわりに畑が広がっていたのか。 2. 練馬区の人口はいつごろから増えたのか。 3. 練馬区全体で畑が減っているのか。
調査結果	【聞き取り調査から】 ○3年前に引っ越してきた人：・自宅の最寄り駅から勤務先である新宿へは乗りかえなしで行けるので通勤がらく。・駅のそばに大きな商業施設。買い物を楽しむことができる。・文化施設が充実。 ○古くから農業を営む人：・食生活の変化によって、だいにこの生産が減少。・都市化の影響で、畑を手ばなす農家が減少。 【統計資料から】 ・練馬区の人口は増え続けている一方で、耕地面積は減り続けている。練馬区の中でも、地区によって人口密度に違いが見られる。
予想(仮説)の検証	・1950年代から1960年代にかけて人口が急増した。人口増加にともなって、畑の面積は減少し、畑の多くが住宅地となった。 ・交通の便が良いことから現在も人口は増え続けており、池袋や新宿に近い区の南東部で人口密度が高くなっている。

表5からわかることは、端的に言えば、「予想(仮説)が十分に検証されていない」ということである。事例として示された調査例では、「練馬区には多くの鉄道路線と駅があって通勤や通学に便利なので、引っ越してくる人が多い」という予想(仮説)が提示されているが、

「練馬区における鉄道の整備と人口増加の関係」、「東京都内の他地区との比較」、「昼間人口と夜間人口の比率」などのデータは示されない。つまり、「練馬区には多くの鉄道路線と駅があると言えるのか?」、「通勤や通学が便利であると、人口は増えるのか?」、「練馬区の人々は鉄道を使って通勤や通学をしているのか?」など、当初たてた予想を検証するための細かな問いについて十分に明らかにされていない。これでは、子どもたちのもつ「交通網が整備される→便利になる→便利なところに人口が増える」という素朴概念を検証が不十分なままに追認しているだけであり、ドーナツ化現象やストロー現象など、子どもの常識とは相反する現象についての説明がおぼつかない。時間をかけて自分たちで課題を見つけ、考えたり、調べたりしても、結局、これまでの社会認識が覆されることがなく、知識の質も高まらない、子どもたちにとっては知的に挑戦しない授業になりかねない。これでは、「課題を追究したり解決したりする授業」を期待しないと子どもが感じるのも当然だろう。

これは、B社の教科書においても同様である。B社の教科書では、「調査の達人」のうち、1~10までが現行指導要領における大項目「(1) 世界の様々な地域」の「エ 世界の様々な地域の調査」に位置づけられている。確かに「調査の達人」の項目を見ると、「『なぜ』という疑問に対する理由を考え」、「いくつかの調べ方を組み合わせ」ながら「調査結果をレポートにまとめ」る方法が指導されている。しかし、教科書に掲載されたレポートの例は、「韓国でキムチがよく食べられるのは、気候が関係しているからだろう」という仮説に対し、「調査の達人」の6「いくつかの調べ方を組み合わせよう」で「ソウルと東京の気温と降水量」の雨温図、「伝統的なオンドルの仕組み」の模式図を載せ、8「調査結果をレポートにまとめよう」で「北部の冬は寒さが厳しいため、新鮮な野菜を手に入れにくくなる。そこで、寒さが厳しくなる前に、翌年の春までの保存食品としてキムチを大量に作っている」とまとめている。これも、仮説に対する検証は十分とは言えない。

このように、日本の中学校地理的分野の教科書では、「地理的事象…を成り立たせている背景や要因」について、仮説を検証する探究の方法の指導は十分とは言えない。それでは、どのようにすれば地理的な探究の指導が可能になるのだろうか。次章では、イギリスの地理教科書KEY GEOGRAPHY SKILLSをもとに考察していく。

3. KEY GEOGRAPHY SKILLSにみられる地理的な検証

KEY GEOGRAPHY SKILLS⁶⁾はOxford社より2014年(初版2003年)に出版された、キーステージ3(11-14才)用の地理教科書である。全体は、「グラフ」

「地図」「写真」「書くこと」「探究」の5つのスキルに関するセクションと用語集、索引から構成されている。地理的な検証についての指導のありようを探るという本章の目的に照らし、「書くこと」、「探究」の2つのセクションについて紹介していく。これらの2つのセクションは、以下、表6・7に示す項目からなっている。

表6 KEY GEOGRAPHY SKILLSの「書くこと」

- | | |
|---|------------------------------------|
| ① | どのようにして地理学者は場所を記述するのか? |
| ② | 私たちはどのようにして鍵となる質問を使用するのか? |
| ③ | 私たちはどのようにして場所を記述できるのか? |
| ④ | 私たちはどのようにして気候を記述できるのか? |
| ⑤ | キーワード、キーセンテンスとは何か? |
| ⑥ | 私たちはどのようにして図解を地理に使用できるのか? |
| ⑦ | ダイヤモンドランキングとは何か? |
| ⑧ | 私たちはどのようにして場所を比較することができるのか? |
| ⑨ | 書くことフレームとは何か? |
| ⑩ | 私たちはどのようにして、書くことフレームを使用することができるのか? |

表7 KEY GEOGRAPHY SKILLSの「探究」

- | | |
|---|---------------------------------|
| ① | 私たちはどのようにして、地理で問いを使用することができるのか? |
| ② | 私たちはどのようにして質問票をつくることができるか? |
| ③ | 私たちはどのようにして質問票を使用するか? |
| ④ | 私たちはどのようにして環境の質を測るか? |
| ⑤ | 私たちはどのようにして買い物の質を測るか? |
| ⑥ | 地理的な探究とは何か? |
| ⑦ | 探究の鍵となるセクションとは何か? |
| ⑧ | どのようにして探究は表現されるべきか? |

表6・表7を表3・表4と比較したときに、英国の地理教科書にしかない指導項目は、表6「書くこと」の指導における「⑤ キーワード、キーセンテンスとは何か?」、「⑥ 私たちはどのようにして図解を地理に使用できるのか?」、「⑦ ダイヤモンドランキングとは何か?」、「⑧ 私たちはどのようにして場所を比較することができるのか?」である。⑤のキーワード、キーセンテンスについての指導は、図解によって「書く」ことの前提であるため、ここでは、「書くこと」の10のレッスンのうち、⑥~⑧の内容を紹介したい。それぞれのレッスンを学習指導案のかたちに再構成したものを次ページ表8~表10に示す。

表8 「⑥ 私たちはどのようにして図解を地理に使用できるのか？」の学習指導過程

○本時目標：図解によって、情報をどれくらい明瞭かつ平易に表現することができるかを考える。

○学習展開

段階	学習内容・活動	指導上の留意点
導入	○図解(ダイアグラム)の良さの種類 <ul style="list-style-type: none"> 図解の良さを知る。 <ul style="list-style-type: none"> 情報を明瞭かつ平易に示す。 長い文章よりも理解しやすい。 図解の特徴を知る。 <ul style="list-style-type: none"> いくつかの部分、要素から構成される。 要素は線、矢印、その他の視覚的リンクでつながった図形として表現される。 図解の種類を知る <ul style="list-style-type: none"> フローチャート：いくつかの要素がどのような順序でつながるかを示す。 星形(くも形)図解：ある要素がどのように他の要素に影響するか、あるいは、いくつかの異なる要素によって影響されるかを示す。 循環的なフローチャート：いくつかの要素が連続的な循環のサイクルの中でどのようにつながるかを示す。 	<ul style="list-style-type: none"> 「よい図解の条件」をおさえさせる。 「よい図解の条件」 <ul style="list-style-type: none"> キーワードやキーセンテンスがある。 ペンで丁寧に描かれ、着色されている。 定規で線を引いている。 図解が何を示したのか、タイトルがある。 レイアウトやサイズ、形などについて、あらかじめ下書きをしている。
展開	○図解(ダイアグラム)の描写 <ul style="list-style-type: none"> 星形図解を使用し、「地理の学習に図解を用いることのメリット」を示す。 次の3つについて、それぞれ別の図解を使用して描く。 <ul style="list-style-type: none"> 火山が噴火したときに、何が起るか。 <ul style="list-style-type: none"> 【要素】 <ul style="list-style-type: none"> 建物と財産の破壊 大きな爆発のような火山噴火 救急隊の活動開始 灰、火山弾、溶岩の噴出 火山は穏やかに音と蒸気を噴き出す 先進国における貿易 <ul style="list-style-type: none"> 【要素】 <ul style="list-style-type: none"> 豊かな国 それが国を豊かにする 主として工業製品の輸出 より多くのお金を稼ぐ それはより価値のある 自動車組み立て工場の立地 <ul style="list-style-type: none"> 【要素】 <ul style="list-style-type: none"> 安価で平坦な広大な土地 人やものの輸送の便利さ 近くに信頼でき、よく訓練された労働力があること 生活条件のよい快適な環境 車の市場へのアクセスの良さ 産業を助ける政府の支援 家から学校までの登校について、図解で示す。 	<ul style="list-style-type: none"> 図Aに示された、「図解の仕方」①～⑥の指示に従い、図を描かせる。 それぞれの要素を、正しい順序に並び替えさせる。 家を出発点に、学校をゴールにさせる。
終結	○図解の特徴をまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> 図解は、キーワードとキーセンテンスを使用して、情報を明瞭かつ平易に示す。 図解は、地理的事象や考え方を理解するのに役立つ。 	

表9 「⑦ ダイヤモンドランキングとは何か？」の学習指導過程

○本時目標：ダイヤモンドランキングを使って情報を順序立てることの良さについて考える。

○学習展開

段階	学習内容・活動	指導上の留意点
導入	○ダイヤモンドランキングの良さ <ul style="list-style-type: none"> 要素を順序づけることが難しい場合に、ダイヤモンドランキングを用いる。 ダイヤモンドランキングを用いることで、重要度が同じくらいのものを、ひとまとめにすることができ、より柔軟にまとめることができる。 	
展開	○ダイヤモンドランキングの描写 <ul style="list-style-type: none"> 「ある地域の開発度」を測定するための方法について、ダイヤモンドランキングを書く。 <ul style="list-style-type: none"> 以下の9つのキーワードを使用する。 <ul style="list-style-type: none"> 人口増加 仕事の供給 富 教育 医療 テレビ保有率 貿易 自動車保有率 アスワンハイダムの影響について、ダイヤモンドランキングをかく。 <ul style="list-style-type: none"> アスワンハイダムの影響について書かれた12の文のうち、重要だと考えるものを9つ選択し、ダイヤモンドランキングをかく。 水力発電のメリット・デメリットについて、ダイヤモンドランキングをかく。 	<ul style="list-style-type: none"> もっとも重要だと考える要素をいちばん上に、もっとも重要でないと考えた要素をいちばん下に書かせる。 図Aに示された、「ダイヤモンドランキングのかき方」①～⑦の指示に従い、図をかかせる。 もっとも良い影響をいちばん上に、もっとも悪い影響をいちばん下にかかせる。 もっとも重要なメリットをいちばん上に、もっとも大きなデメリットをいちばん下に書かせる。
終結	○ダイヤモンドランキングの特徴をまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ダイヤモンドランキングを用いることで、より柔軟にものごとの順序を示すことができる。 ダイヤモンドランキングは、明瞭かつ平易な方法で重点を示すために、キーワードとキーセンテンスを使用する。 	

表10 「⑧ 私たちはどのようにして場所を比較することができるのか？」の学習指導過程

○本時目標：ベン図を使用して比較することの良さについて考える。

○学習展開

段階	学習内容・活動	指導上の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○比較することの良さや方法 ・場所を比較することの良さを知る。 ・場所の違い(独自性)と共通性を認識することができる。 ・宗教、植生、定住パターンなどの現在の景観比較だけでなく、場所がどのように変化するか、ある出来事に対する対応の仕方がどのように異なるかを明らかにするのにも、比較は用いることができる。 ・比較の方法について知る。 ・ベン図を使用することにより、共通性と独自性を明らかにし、場所を比較することができる。 	
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ベン図の描写と利用 ・「自分で家を建てること」のメリットを明らかにする。 ・ナイロビのキベラ シャンティタウンの写真と、ブラジルのサンパウロで自分で家を建てている光景の写真と比較し、以下の16の語を用いて、ベン図を作成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・質の低い住宅 ・道の改良 ・発展途上の都市内 ・スクラップ素材の使用 ・新しい建築 ・わずかな快適性 ・開放下水 ・計画的な開発 ・北極の写真(写真D)と南極の写真(写真E)を見て、それぞれの特徴を書く。 ・北極と南極を比較するベン図をかく。 ・2つの地域を比較する文章を書く。 ・計画的な道路 ・トタン板の屋根 ・困難な生活状況 ・貧しい人のための住居 ・基本的な宿泊場所 ・ブロックの壁 ・手ごろな生活条件 ・荒れた道路 	<ul style="list-style-type: none"> ・もっとも重要だと考える要素をいちばん上に、もっとも重要でないと考えた要素をいちばん下に書かせる。 ・写真DとEのなかにそれぞれ、景観写真の読み取りで着目すべきポイント④～①が記入されている。この点に着目させる。
終結	<ul style="list-style-type: none"> ○ベン図を使うことの良さをまとめる。 ・場所の比較は、地理の重要な技術である。 ・ベン図を使用することにより、共通性と独自性を明らかにし、場所を比較することができる 	

表8～表10から言えることは、KEY GEOGRAPHY SKILLSでは地理の仮説の立て方について丁寧な指導がなされているということであろう。例えば、表8に示した図解についての指導では、「火山の噴火の前兆」から「救急隊の活動」までの流れを時系列で並べたり、貿易によって豊かな国がより豊かになるからくりを循環型の図で表現したりする活動を行う。これは換言すれば、これらの活動を通して、「火山噴火によって救急隊が活動するまでにどのようなプロセスがあるのか」、「貿易によって豊かな国がより豊かになるのはなぜか」という、社会的事象を成り立たせている要因や関連についての仮説を立てているということである。さらにこのことを通して、仮説検証のためには何を調べればよいのかについてもつかむことができる。これは、表10に示したベン図についての指導も同様である。アフリカ最大のスラム、キベラの様子を、サンパウロにおけるセルフヘルプハウジング事業(荒廃した地域を住民自身による再開発によって立て直し、コミュニティの再生や住民の職業訓練などをめざす試み)と比較することにより、スラムの特徴についての仮説を立てることができる。

また、表9のダイヤモンドランキングについての指導では、ダイヤモンドランキングを用いて、ある社会的事象についての事実判断、価値判断をどのようにす

ればよいのかを確かむことができるようになっている。例えば、「ある地域が開発されていると言えるか否か」についてどのような客観的な指標を用いればよいのかを考えたり、アスワンハイダムや水力発電の是非について判断するとき、どのような事実に着目し、調べればよいのかわかるようになっている。

約言すれば、KEY GEOGRAPHY SKILLSで指導されているのは地理学習における事実認識、関係認識、価値認識のいずれにおいても、情報を整理したり、仮説を立てたり、事象間の関係について図解する活動を通して、子どもたちが自分の考えを説明・検証するために何を調べればよいのかを明らかにするスキルであると言えるだろう。

4. おわりに

子どもたちが地理的に探究することのできる授業を実現するためには、現行中学校社会科地理的分野の教科書で紹介されている地理的技能の指導に加え、子どもたちが自分の考えを説明・検証するためには何を調べればよいのかを明らかにするスキルを指導する必要があることが示唆された。これは、新指導要領の教科書の目標の解説に、「主体的・対話的で深い学びが実現されるよう、生徒が社会的事象等から学習課題を見いだし、課題解決の見通しをもって他者と協働的に追究し、

追究結果をまとめ、自分の学びを振り返ったり新たな問いを見いだしたりする方向で充実を図っていくことが大切」(下線部筆者)とあるように、子どもたちの主体的な学びを通しての深い学びの実現と、それが結果として「将来役立つ知識と技術を身に付けられる授業」という子どもたちの期待に応えるものにもなりえよう。

【注】

- 1) 文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』
- 2) 藤沢市教育文化センター『第11回「学習意識調査」報告書—藤沢市立中学校3年生の意識』、2016、<http://www1.fujis->

awa-kng.ed.jp/kyobun-c/index.cfm/1,html

- 3) 森分孝治『社会科授業構成の理論と方法』明治図書、1978
- 4) 文部科学省、前掲書、pp.28-29
- 5) 文部科学省、前掲書、pp.53-54
- 6) Tony Bushell, *Key Geography*, oxford university press, 2014
- 7) 文部科学省、前掲書、p.24

【参考文献】

- ・帝国書院『社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土』、2016年発行
- ・東京書籍『新編 新しい社会 地理』、2016年発行

